

大阪医療福祉専門学校 ことばの相談室 20周年記念講演 2023/3/5 に寄せて
「安心して暮らせる環境づくり ～モノとの関わり方～」

安心して暮らせる環境とはどのようなものでしょうか？

お住まい、ご家族や暮らし方によって安心して暮らせる価値観も異なりますが、私たちは日常生活に様々な「モノ」を必要とし、使っています。

電化製品・家具・照明器具・寝具・服・学用品・食品・・・

上手く、遜色なく、活かしていますか？見つからずイライラした事ありませんか？

今回は、身近な「モノ」との関係から、安心して暮らせる環境を考えてみます。

例えば、人がいます。人（住まい人）が守るシェルターとしての家があります。

人（住まい人）は家の内部空間で日々の生活を営み、生活を円滑におこなうために道具（モノ）を使います。「住まい人」と「内部空間」と「モノ」、この3つの要素、機能が上手く調和することで安心した暮らし、快適な暮らしを維持していくことが可能になります。

「内部空間」も「モノ」も、「住まい人」のために整えていきます。

「内部空間」は、一定の制約、基本的には床・壁・天井面で囲われた空間であるため、その表面材を選ぶ自由度は高くても、空間そのものを容易に変更することは難しいものです。

多くの「モノ」は人が使うために作られていますので、ライフステージやライフスタイルに合わせて、様々な商品等を『選び』→『手に入れる』→『使う』→『手放す』ことによって、暮らしの快適性・利便性を高めています。同じ用途の「モノ」であれば『手に入れる数』と『手放す数』が同数であれば、暮らしの中で一定の数の秩序は守られていきます。そして、全ての「モノ」を把握・管理していれば、ライフステージやライフスタイルが変わっても快適性は維持することが可能です。

ところが「モノ」との関係が良好かといえ、ば、「住まい人」の年齢や心身状況などによっては、日常生活に不都合が生じている場合もあります。なぜなら、「使いやすい」「使いにくい」「分かり易い」

「分かり難い」環境によって、安全性や利便性も大きく異なり、精神面にも影響が出てきます。

外部からの情報が直ぐに上書きされる人や見えなければ記憶に留める事が難しい人にとっては「モノ」を認知し、スムーズに使うことは困難な場合もあります。

「安心して暮らせる環境づくり～モノとの関わり方～」では、「人」と「モノ」との関係が精神面等に影響を与えることに気づいていただき、「住まい人」にとって、誰でもが、負担が無い、使いやすい、分かり易い、ストレスを感じない、安心して暮らせる環境づくりについてお話しさせていただきます。

話のキーワード：動作域・動線・頻度・視認性・ワーキングメモリー

2023年2月6日

少しの配慮で安全で安心した暮らしを

デザインオフィス レイ 代表 清水麗子

福祉住環境コーディネーター/整理収納コンサルタント/発達支援教育士